

1 主題名 助け合う友達 「森のともだち」 B－(9) 友情，信頼

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

低学年の内容項目B－(9)は、「友達と仲よくし、助け合うこと」である。これは、友達関係を築く上で最も大切なことであり、友達との間に信頼と切磋琢磨の精神をもつことに関する内容項目である。児童にとって、友達関係は最も重要な人間関係の一つであり、友達関係の状況によって学校生活が充実するか否かが方向付けられることも少なくない。そこで、より良い友達関係を築くためには、互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し、助け合い、信頼感を高め、友情を育んでいくことができるように指導することが大切である。また、一人一人の違いを知り、互いに認め合うことは、友達の新たなよい面を発見することにもつながり、さらに仲良く助け合っていくことができると考える。低学年の児童の発達段階においては、まだ幼児期の自己中心性から十分に脱しておらず、友達の立場を理解したり、自分とは異なる考えを受け入れたりすることが難しいことも少なくない。しかし、学級で生活を共にしながら一緒に勉強したり、仲良く遊んだり、困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験を積み重ねることで、友達のよさをより強く感じられるようになる。本時では特に、身近にいる友達と一緒に仲良く活動することのよさや楽しさ、助け合うことの大切さを実感できるようにすることが重要である。また、友達とけんかをしても、相手の気持ちを考え、仲直りできるようにしたい。そのためには、友達と一緒に活動して楽しかったことや助け合ってよかったことを考えながら、仲良く生活することの大切さを育んでいきたいと考える。さらに資料に触れる際には、動物たちがこんきちを助けるかどうか迷う様子やこんきちを助けた動物たちの気持ちに焦点を当てて考えることができるように、資料を前半と後半に分けて読み、ねらいとする価値に迫りたい。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、明るく素直な児童が多い。友達が困っているときに「どうしたの。」と声をかけたり、「こうするといいよ。」とアドバイスしたりする姿が見られる。帰りの会では、困っている人を助けていた友達を紹介したり、友達に助けてもらって嬉しかったことを発表したりして、互いに認め合うことができている。しかしその一方で、実態調査の結果を見ると、友達に助けてもらったという経験がないと答えている児童もあり、助けてもらった実感をもてない児童もいることが分かった。そこで、互いに助け合うことのよさや大切さを実感し、友達と仲良く助け合おうとする心情を育てたい。また、道徳の時間には、自分の考えをもち、進んで発表できる児童もいるが、自分の考えがあっても、友達に伝えずに話を聞いているだけの児童もいる。このような課題に対して、まずは、児童自身が自分の考えを明確にし、周囲にその考えを表すことができるように、思考ツール（心情スケール）を活用したいと考える。その後、グループで話をする機会を十分に設け、自信をもって自分の考えが発表できる学習活動を構想していきたい。

実態調査

(7月20日実施 24名)

1. 自分の考えをはっきりもつことができる。	はい 17名	いいえ 7名
2. 自分の考えを分かりやすく伝えることができる。	はい 8名	いいえ 16名
3. 困っている友達を助けたことがある。	はい 18名	いいえ 6名
4. 友達に助けてもらったことがある。	はい 21名	いいえ 3名

(3) 資料について（資料名 「森のともだち」 東京書籍「新訂 新しいどうとく ②」）

本資料は、森の動物たちが助け合い、励まし合う物語である。森の動物たちに乱暴してきたきつねのこんきちが、おおかみに襲われたときに森の動物たちから助けられる。最後の場面では、自分のことしか考えていなかった愚かさや仲間の大切さを実感し、こんきちは謝りながら大泣きするという内容である。森の動物たちがおおかみに襲われるこんきちを助けるか相談する場面などを通して、仲間を大切にし、助け合うよさを考えることができる教材である。

3 関連

道徳の時間

4月 B－(9) 友情，信頼
「ともだちやもんな，ぼくら」

10月 B－(9) 友情，信頼
「森のともだち」

10月 B－(6)
親切，思いやり
「かっぱ わくわく」

各教科

学校行事

地域・家庭

4月 生活科「1年生をむかえよう」
5月 国語「名前を見てちょうだい」

4月 1年生を迎える会
5月 運動会
7月 海岸清掃・砂浜遊び

6月 親子歯みがき教室
10月 久慈スポフェス

4 本時の活動

(1) ねらい

友達と仲良く助け合っていこうとする態度を育てる。

(2) 準備 場面絵 心情スケール（掲示用、グループ活動用） ホワイトボード ネームプレート ワークシート

(3) 展開

㊦は個への支援 ㊧は評価

主な活動と発問	予想される児童の反応	支援の手だて
1 学校生活の中での自分の経験を振り返る。 ○ 友達にどんなことで助けてもらったことがありましたか。	・ 怪我をしたとき、保健室に連れて行ってもらった。 ・ 分からない問題があったとき、解き方を教えてもらった。	・ 友達に助けてもらった経験を振り返ることで、価値の方向づけを図る。
2 本時の学習の課題を確認する。	友だちとなかよく助け合うことについて考えよう。	
3 登場人物の心情を捉える。 ・ 登場人物を確認する。 ・ 資料「森のともだち」の前半部分を読む。 ○ おおかみに捕まったこんきちに「助けてくれ。」と言われたとき、自分が動物たちだったらどうしますか。 ・ ワークシートに自分の考えを書く。（個人） ・ 黒板の心情スケールにネームプレートを貼ったあと、ホワイトボードの心情スケールを使って、自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりする。（グループ） ・ 考えが変わった時は、ネームプレートを移動し、その理由を説明する。（グループ、全体） ○ これまでいじわるをされていたのに、動物たちはどうしてこんきちを助けたのでしょうか。 ☆ 「ごめんよ、ごめんよ。」と言いながら、大声で泣き出したこんきちは、どんな気持ちだったでしょう。	・ 登場人物は、こんきち、森の動物たち、おおかみ ・ （助ける）こんきちがかわいそうだから。 ・ （どちらとも言えない）こんきちは助けたいが、おおかみが怖い気持ちもあるから。 ・ （助けない）こんきちは、今までみんなにいじわるをしてきたから。 ・ 友達の考えを聞いて、「助ける」に考えを変える。訳は、友達の考えを聞いて、こんきちを見捨てるのはかわいそうだったから。 ・ 友達の考えを聞いて、「助けない」に考えを変える。やっぱり、いじわるをしてきたこんきちを助けたくない。 ・ 同じ森の仲間だから。 ・ 助けないとこんきちがおおかみに怪我をさせられてしまうかもしれないから。 ・ 自分の代わりにぴよん子が怪我をしていた。ごめん。 ・ 自分だけ逃げた。ごめん。 ・ 今までいじわるをしていたのに、みんなが助けてくれた。ありがとう。	・ 登場人物をおさえるため、場面絵を掲示する。 ・ 動物たちの気持ちを共感的に捉えるために、自分が森の動物たちだったらどうするかを問う。 ・ 自分の考えをワークシートや黒板掲示用の心情スケールに表し、その理由を考えるよう指示する。 ・ ホワイトボードの心情スケールを使って自分の考えを明確にし、グループの友達に伝えるように促す。 ・ 友達の考えを聞いて、考えが変わった児童には、考えが変わった理由を発表するよう促す。 ㊦ 考えがまとまらない児童には、動物たちのやりとりについてもう一度想起するよう助言する。 ・ こんきちの涙には、謝罪や反省の気持ちだけでなく、感謝や友達のよさを感じているからということにも気付けるよう問いかける。
4 これからの自分の生活について考える。 ○ 友達となかよく助け合って生活するには、自分はどんなことができますか。	・ これからは友達にいじわるをしない。 ・ 困っている友達がいたら、助ける。 ・ 怪我をした友達を見つけたら、保健室に連れて行く。	・ これから自分が友達となかよく生活するためにどのようなことができるか、ワークシートに書くよう促す。 ㊧ 友達と協力し、助け合うことのよさに気付き、実践しようとする意識が高まった。（観察、ワークシート、発表）

5 事後の指導

本学級では、「困っている友達を見つけたら助けられる子」を目指し、指導している。学校生活の中でお互いに助け合って生活し、友達のよさを見付け、帰りの会で称賛するよう助言する。また、人権教育の「あったかハートコーナー」を活用し、価値をより高められるよう指導する。